

団長の稽古日記

「大成功でした！」

1月26日(金)〜27日(土)に掛けて、港区麻布区民センターにて開催致しました劇団ふぁんハウス第44回公演「ふたりのゆめ」は、今回も無事公演を終える事が出来ました。

新作だったという事もあり、稽古中は試行錯誤の繰り返し。

「この作品で大丈夫か？お客様の中に届くのか？独りよがりの作品じゃないのか？」という不安と自信のなさが、常に心の片隅にありながらの稽古の日々でした。

しかも最終稽古を終えても、「よっしゃ！完成じゃ！」という手応えは結局は拙めず、その数日後には劇場入り。場当たりが夜9時過ぎまで続き、翌日の初日も朝から場当たり、ゲネプロ：：そしてついに本番：：。

舞台裏では、かなりドタバタした感があったけれど、初日、楽日とも大きなミスもなく、大勢のお客様も、大変満足していただいたという実感を得て、まずはホッとしているところです。

今回も、劇場入りから公演終了までの様子を日記形式でお伝えいたします。

1月25日(木) 「いざ劇場へ」

朝5時45分、身支度を整えて玄関の扉をあけるとまだ真つ暗。

それに寒い！天気予報によれば、この冬一番の冷え込みが予想されるとか！ただ風はなく、そこまで「うー寒い」って感じはしない。

雨や雪が降らないのは大変ありがたい事だし、寒いのは冬なんだから当たり前だと気持ちを引き締め、(妻の)美鶴さんと共に平野カーに乗り込み、目指すは劇団倉庫。

集合は6時30分なんだけど、すこし早めの6時15分に倉庫に到着すると、すでに積み込みのトラックは到着していた。

何年前だったかなあ？一度、積み込みトラックのドライバーさんが寝坊をして、連絡も取れず、かなり：：いや、そおーどうの大ピンチになった事があっただけに集合時間前から、こうしてトラックがちゃんと倉庫前に到着してくれているのは、当たり前だけどありがたい。

まずはドライバーさんにご挨拶をして、恐らく、こちらも相当前から到着していたであろう「千秋カー」の千秋ちゃん(鈴木千秋)に挨拶をしていると、空はようやく白み始めたけれど、あたりはまだ薄暗い。

そこへ舞台監督の高橋さんを先頭に、劇団メンバーも続々と到着。

集合時間前だけど全員が揃ったので、無駄話をする事もなく、早速、積み込み開始！

移動式階段(イントレ)の各段に一人ずつ並び手際よく、今回の公演で必要な道具類、受付セット等をテキパキと運び出し、次から次へとトラックに積み込んでいくと、寒さもどこへやら。

ドライバーさんの積み込みテクニクもたいしたもの、かなりの量の道具類を約30分でバッチリ納めていただき、トラックは一足お先に劇場へ。

「このトラックがタイムスリップして異次元に行ったら、公演出来ないよね」と私が呟いたら、「すげー発想しますね、次回作はそういうのはどうですか？」と舞監の高橋さんは笑う。

タイムスリップは兎も角として、何らかの理由で、トラックが劇場に到着しなきゃ間違いない公演は中止になる。みんなでトラックの後ろ姿に手を合わせ、首を垂れる。

午前7時、我々も車に乗り込むと、ラジオから「おはようございます。1月25日木曜日、朝7時、〇〇〇〇です。」と聞きなれたボイス・エマノンさんの声。「おおお！」って、何故か車の中のみんなは歓声を上げる。

「エマノンさん、行ってきます」とラジオの中の彼に挨拶をした。(届いたかな?)

平日の都心は、相変わらずの渋滞だったが8時30分頃、劇場に到着すると、トラックも到着していたので一安心。

しばし休憩をして開館時間の9時、怒涛の搬入開始！皆で手分けしての搬入だったので、とても早く劇場内に、全ての道具類を運び込む事が出来た。

まずは照明の仕込み、そのあとに大道具の作業が始まり、音響チームも仕込みを始めるので、劇団メンバー達も、「舞台設置チーム」、「楽屋での作業チーム」、「受付設営チーム」と事前に決めておいた3つのグループに分かれての作業を行う。

こうして何も無い劇場に、「ふぁんハウス」が命を吹き込みはじめ、各陣営での作業は続くが、私はどのチームにも属さず、みな作業状況をビデオカメラにて収録していると、わお！立派な舞台セットがそびえ立つ！

そこで今度は、明かりのあたる場所の調整作業(シート)を開始し、色取り取りの明かりを当て、色合いを決めていき、音響さんも様々な音を様々なスピーカーから出して、様々なセッティングをして、なんじゃかんじゃやっている、18時半、いよいよ緊張の「場当たり」がはじまったのです。